

特集 1

新春トップセミナー

いのち輝く未来社会の実現に向けて
～医工連携を考える～

閉会挨拶と総括

(一社)生産技術振興協会 常任理事

大阪国際がんセンター総長 松浦成昭

本日は年度末に近い中、また新型コロナウイルス感染防止にともなう制限がある中でも、多くの方々にご参加いただき、本当にありがとうございました。とくに医学と工学の立場から馬場口先生、澤先生には「いのち輝く未来社会の実現に向けて」のタイトルにふさわしい夢のあるお話をさせていただきました。その後のパネルでは産業界、経済界を代表して更家さん、生駒さんが加わり、素晴らしいディスカッションをしていただき、本当に勉強になったと思います。

大阪国際がんセンターの私はがんが専門領域であり、澤先生の分野である循環器の病気とがんが日本で最も多い病気です。日本人の死因でいちばん多いのががんであり、死ぬ人の3割くらい。心臓の病気が16～17%、脳血管疾患が12～13%で、心臓の病気と脳血管の病気を足すと3割くらい。つまりがんと心臓の病気、脳卒中で日本人の死因の約6割を占めます。いのちを落とすという面からこれらは非常に大事な病気です。本日は澤先生から心臓外科、心臓の再生医療について今後の展

開を含めて講演していただきました。私たちの領域のがんについてもロボットによる手術や放射線、核物理とかエネルギーを使った治療などがトピックであります。医工連携、つまり工学の力を借りて進んできた経緯があります。

馬場口先生、澤先生の講演はいずれも歴史のことから始められましたが、大阪工業学校は官立としては東京と並んで日本でいちばん古い創設でした。医学部の方は府立ですが大阪医学校でして、どちらも古い歴史があり、いろいろな実績を積んできて、現在も医工を中心にした連携の実績をあげられています。お二人には未来社会に向けてのお話をさせていただきました。医工の「医」は医療のことですが、パネルディスカッションの中で更家さんから、医療だけという狭い範囲だけでなくヘルスケアのお話がありました。どんな人でも健康で楽しくいききたいと思っているはずで、健康を追及するという、もっと広い概念で捉えていけたらと思います。内閣府の調査で「日本人でいちばん何を望みますか？」という問いに対し、「健康であること」と答えた人がこ

の5年間いちばん多いそうです。それは逆に、健康でない方が多いことを意味するのかもしれませんが。いろんな病気がありますが、まだまだ解決しなければならないことがあります。「工」も工学のことだけではなくて広い意味での理系、あるいは文科系も含めもっと幅広い領域が連携することによって健康状態を維持できますし、もし病気になっても何とか治すことができる。天寿を全うするまで元気で、天寿を全うしてぼっくり逝く。これがいちばん幸せなこととして、それを目指していきたいと思います。

お二人の講演では教育、人材育成の重要性についてもお話がありました。生命のいちばんの目的は次

の世代を育てることです。産業界でも次につなぐということが大事です。澤先生は国際的な人材育成に取り組んでいますし、馬場口先生は高校生をターゲットに魅力ある大学に優れた高校生を送り込むことまでを考えておられます。やはり大学は教育と研究、この2つがあってこそその大学でありますので、医工連携をしていただいて、そこには医工を核にいろんな学部の方々に参加していただいて、大阪大学を起爆剤として大阪・関西が元気になることを期待したいと思います。本日は本当にいいお話、ディスカッションをしていただき、ありがとうございました。

